研究所だより

第４００号
２０１９年　４月１０日
発行：土佐清水市教育研究所
ＴＥＬ　８２－３０１５

“ 菜の花畠（ばたけ）に　入り日薄れ　見わたす山の端（は）　霞（かすみ）ふかし
春風そよふく　空を見れば　夕月（ゆうづき）かかりて　におい淡（あわ）し”
『おぼろづきよ』　日本の唱歌　1914年（大正3年）

～春爛漫　平成３１年度スタート～

満開の桜の花びらが舞うなか、各校では平成３１年度の始業式、入学式が執り行われたことと思います。子どもたちの元気な声が学級やグラウンドを駆け巡っていることでしょう。

新年度を迎え、子どもも教師も夢や希望を持ち、やる気に満ちあふれていることでしょう。しかし、不安と期待が入り交じり、戸惑いもあろうかと思います。教師集団がしっかりと子どもたちを支え、楽しく、喜びのある集団づくり・授業づくりに邁進して行くことを願っています。

『　喜んで登校　満足して下校　』

＜教育センターの紹介＞

平成３１年４月から市役所の組織変更により、家庭児童相談室が福祉事務所から教育センターに移設されました。この変更により３名の職員を迎え入れ、総勢１１名でスタートしました。

教育センターでは、補導センター、教育研究所、適応指導教室、家庭児童相談室の４部署とＳＳＷが横の繋がりを密にし、連携を保ちながら、児童・生徒を取り巻く教育環境の整備、教職員・保護者等の教育相談体制を確立し、様々な教育分野に対応していきます。要は、教育全般に関わって、学校と先生と子どもと保護者のためにあるセンターです。特に先生方には利用していただければ幸いです。可能な協力と支援をさせていただきます。

所　長：亀谷 幸則
主管全般
所長補佐：上田 統夫
主管全般補佐、庶務、予算等

補導センター ８２－３５０１	教育研究所 ８２－３０１５	適応指導教室 ８２－３０１６	家庭児童相談室 ８２－０３５５	ＳＳＷ ８２－３０１６
横山 充生 （補導教員）	勝間 康人（主任研究員） 岡田 佐知（研究員）	泥谷 人美 （児童生徒相談員）	田村 雅宏 酒井　史 岡部 千代	杉本　順 出口 里奈
補導活動 相談活動 環境浄化活動 広報活動 研修活動	研究所主管・庶務全般 教育支援、調査研究 教育研究集会 教育相談 不登校児童生徒支援 あすなろﾈｯﾄﾜｰｸ	不登校児童生徒支援 教育相談 あすなろ教室	児童家庭相談全般 （要保護児童対策地域協議会調整機関） 児童虐待防止対策ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ	教育相談全般 （５月から勤務）

☆家庭訪問で子どもの姿をつかむ　～最初の出会いを大切に～

家庭訪問は、「家庭での子どもの様子や保護者の教育要求を聞いて、今後の教育に役立てるために行う。」という点をしっかりおさえておく必要があります。

最初の出会いですから、先ずは保護者の話を聞く（傾聴）ことです。話を受け止めることから良好な関係（パートナー）ができてきます。話の中で「それは…」「けれど…」と疑問を呈したり、否定的な言葉が出ると話は進みません。保護者の悩みに耳を傾け、共感的理解者になることから、共同の歩みが始まります。その点を配慮しながら家庭訪問に臨んではいかがでしょうか。

具体的におさえるポイントとして

〇子どもの育っている教育環境から子どもの姿をつかむ

・災害、防災等の緊急時に対応するために、子どもの家の所在地を確認する。
・子どもの生活環境を知る。（地域の特性、通学路や危険箇所、家庭学習、遊び場、家事分担など）
・保護者の子どもについての考えなどを率直に聞く。（育児観、教育観）
・家庭における子どもの長所、短所を知る。（親の子ども観など）
・保護者と教師の情報交換、相互理解を図る。（子どもの病気、怪我、進路、友だち関係など、学校では話せないことなども話し合う場になる。）
・保護者と子、教師の信頼関係を築く。
・保護者からの学校や担任への期待や要望を聞き、収集する。

いじめのない学級をつくる！　－４月にすべきことー

「出会いに全力を尽くし、魅力ある学級へ！」

著作：和久田　耕平　氏（大阪府交野市立郡津小学校教諭）　（指導と評価　４月号から）

１　いじめのない学級には、何があるのか

教師として現場に立つわれわれは、様々な希望や願いを抱いている。その中の一つには、「いじめのない学級をつくること」が含まれていることだろう。そのようないじめのない学級には何があるのだろうか。前稿（研究だより３月号記載）の米田論文では、子どもが魅力を感じる学級づくりが、最大の未然防止につながるという。教室に行くのが楽しみで、人間関係を育み合いながら学び、帰るときには充実感がある毎日を過ごすことができれば、いじめ加害者が生まれないからである。

また、いじめのない学級には、子どもの『居場所』としての機能と、子どもどうしの『絆』（国立教育政策研究所、２０１５）、『安全な環境』（スミス、２０１４）の三つが必要である。

そこで本稿は三つの観点に踏まえ、」４月当初の魅力ある学級づくりの方策としてキラキラプログラムⅠ（以下、キラプロⅠ）から、学級開きと授業開きについて提案する（米田、２０１５）キラプロⅠは、個の人間力と個を育む集団を育てることをめざす心理教育プログラムである。

学級開きの目的は、子どもが新しい学級での生活に期待をもてるようにすることである。この学級開きが、今後の学級の雰囲気につながる。したがって、出会いに全力を尽くすのである。

授業開きの目的は、今後の授業における基本的な方針を子どもと共有することである。

どちらも子ども自身が、自分たちは大切にされているんだと感じられる時間にすることが肝要である。本稿の提案は、小学校高学年を想定している。実践していただく場合には、それぞれの現場に応じて適宜修正を加えていただくようお願いしたい。

２ 学級開きの展開例

【出会いのワーク（１５分程度）

導入

目的の説明「出会ったみんながお互いのことを知り合い、仲良くなれるよう、出会いのワークをします。時間は約１５分間です」

展開(1)

質問じゃんけん米田バージョン（米田、２０１９）（５分程度）※苦手そうな子どもがいるときは、質問例を板書するかプリントにして配布する。「左右の人とペアになり、仲良くなるためにお互いのことを知る『質問じゃんけん』をします」

「勝った人は、仲良くなるために知りたいことを一つ、遠慮なく質問します。仲良くなるための質問ですので、聞かれた人はがんばって、答えます。どうしても答えたくない質問はパスして、違う質問にしてもらいます。答えてくれたら勝った人は自分の答えについて話します。一問一答形式です。終わったら、次のじゃんけんをします」（モデルを見せる）

「相手の人が答えやすそうな質問から始めましょう。どうぞ」（１分程度）

シェアリング(1)：「どんな気持ちがしたか、『楽しかった。初対面でも話せたから』とか、「悔しい。負けてばっかりだから」とか、気持ちとその理由を話し合ってください。ペアの右の人から３０秒交代です。始めてください」

「ペアで話し合ったことを、シェアしてくれる人はいませんか」（１～２ペアにインタビューする）

・ポイント：一人の子どもに気持ちとその理由を聞いたら、ペアの相手の子どもにも聞く（以降、同様）

展開(2)

相互インタビュー（５分程度）「同じペアで、お互いのことをもっと知るためにインタビューします。もう一回じゃんけんし、勝った人からします」

「一問目は、最近うれしかったことを４５秒で聞きます。どうぞ」「そこまでにしてください。交代です」

「次は、今年のクラスに望んでいること、期待していることをインタビューします。聞き手は相手の望みが具体的にわかるように質問します（モデルを見せる）。勝った人から『あなたがクラスに望んでいる、期待していることは何ですか？』と聞きます。どうぞ」「そこまでにしてください。交代です」

シェアリング(2)：「うれしかったことや望みや期待を話してみて、聞いてみて、いまどんな気持ちかを話し合いましょう」（数組にインタビュー）

・ポイント：二問とも教師自身が自己開示して、モデルを示す。そのモデルのレベルが子どもの規準となる。

展開(3)

４人組で他己紹介（４分程度）「ペアを合わせた４人組で、ペアになった相手のことを別のペアの人たちに２０秒で他己紹介します。印象に残ったことから順に話していきます。記憶力を競うゲームではないので、忘れたことは聞き返してもかまいません。聞かれた人は、やさしくもう一度教えてください、２０秒ごとに合図するので、時計回りに紹介していきます」

シェアリング(3)：「出会いのワークを始める前といまとで、どんなふうに気持ちが違うかを話し合いましょう。４人で１分間です。どうぞ」（数組にインタビュー）

まとめ

「今日はここまでです。『楽しかった』と感じた人もいれば、『しんどかった』と感じた人もいるかもしれません。その気持ちに、良い、悪いはありません。大切なことは互いの違いについて話し合い、そこで気づいたことを共有し、認め合うことです。みんなが気持ちよく、安心して過ごせるクラスをつくっていくために、先生はいじめを許しません。先生は、いじめのない学級をみんなと一緒につくっていきたいです。みんなは、どう思いますか（子どもと対話しながら）。みんなの想いを実現するためにできること、役立つことをみんなで一緒に考えて実行していきましょう」

３ 授業開きの展開例

【授業ルールを決めよう（１５分程度）】

導入

目的の説明「今日から、授業が始まります、授業のルールをみんなで決めましょう」

展開(1)

学習への期待と不安の交流（４分程度）「では、勉強への期待と不安を隣の人と交流しましょう。左の人から勉強について、①昨年度、できたこと、②今年度の目標、③不安を感じること、を１分半で話します。聞く方は、途中で質問してもかまいません。時間が来たら交代します。どうぞ」「そこまで。交代です」「話してみて、聞いてみて、どんな気持ちがしたか話し合いましょう」（数組にインタビュー）

フィードバック(1)：「みんなが一生懸命に話し、真剣に聞く姿を見ることができてうれしいです」

展開(2)

学び方のルール作り（①話し方、②話の聞き方、③適切な声の大きさ）（１０分程度）

「どんなルールを決めておくと、みんなが気持ちよく学べますか」

・**ポイント**：子どもから出てくるものを否定せず、まずは出させる。子どものいままでの経験から、成功例を引き出す意識をもつ。意見が出づらい場合、いくつかの観点で問い直す。

(例)「話したいことがあるときは、どうすればいい？」
「話している人がいるときは、どうすればいい？」
「声の大きさは、どれくらいがいい？」

・**ポイント**：先生が、それぞれ実際にやってみせ、子どもにも練習させる。

まとめ

「ほかに必要なルールはありますか」「決めた授業のルールをまとめましょう」（板書）

「これから、気落ちよく学べる授業を一緒につくりましょう」（学級の係などに、話し合ったルールを模造紙等に書いてもらい掲示する。）

４ 実施に当たって

年度当初は、学級担任がリーダーシップを発揮し、細かく丁寧に仕切る必要がある。「先生がいれば安心」という気持ちがもて、安全な環境づくりにつながるからである。学級のメンバー一人一人に配慮し、言動に介入が必要ならためらわず行う。そして、教師の想いや考えを丁寧に打ち出す。それが、いじめは許さないというわれわれの意思表示につながる。ただし、教師の「許さない」という圧力が強すぎると、いじめが潜行する可能性があることも押さえておきたい。

もし、子どもの言動できになることがあれば、その理由を丁寧に聴くことが第一である。そのうえで必要に応じて指導する。そうすることで、「先生は私の話を聞いてくれる」と実感してくれる。いじめが起こったときに子どもが教師に相談できる関係を、日常のかかわりの中でつくり出しておきたい。

また、集団のサイズと時間を意識することも大切である。子どもへの負担が大きくなりすぎないよう、集団のサイズはペアの交流から４人組という風に少人数から広げていく。時間は、最初は短時間で区切りながらテンポよく展開する必要がある。

５ まとめ

新しい学級の子どもは、初めてのクラスメイトや担任に期待と不安の両方を抱えた状態で出会う。われわれの４月にすべき一番の仕事は、子どもが抱えた不安を小さくし、期待を大きくすることである。そのために、学級開きと授業開きから『居場所』『絆』『安全な環境』を子ども共に創造し始めることが役立

つだろう。魅力ある学級づくりを通して、教師が外からの歯止めとなることで、子どもが安心を感じられ、仲間づくりで培った絆が内からの歯止めになる学級をめざす。

学級開きと授業開きの展開例は、文章だと簡単にできそうだが、実際はかなり練習して臨まないと効果は期待できない。キラプロⅠは、ＳＧＥを理論的背景の一つにしているため、その体験がないと展開例に実感がもちづらいかもしれない。ご自身の実践力をさらに高めるためにも、実際に学びの場を探されて、ＳＧＥを体験されることをおすすめしたい。

（引用・参考文献）
・米田　薫『（改訂版）厳選！教員が使える５つのカウンセリング』ほんの森出版、2019年
・米田　薫『確かな社会性と豊かな感情を育てる　キラキラプログラム　第１回学級びらきと授業びらき』月刊学校教育相談４月号、2015年、56～59頁
・ﾋﾟｰﾀｰ･K･ｽﾐｽ著　森田洋司・山下一夫総監修　葛西真記子・金網知征監訳『学校におけるいじめ』学事出版、2016年
・国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター「『絆づくり』と『居場所づくり』」第二版、2015年

☆書籍の紹介☆

①　「あたし研究」（クリエイツかもがわ）
②　「あたし研究２」（クリエイツかもがわ）
著者である小道モコさん自身が自閉症スペクトラム症です。当事者の立場から、言葉にできない微妙な感覚や、生活の工夫について、イラストで分かりやすく描かれています。高知県療育福祉センターに勤務されていた畠中雄平先生が、一つひとつ丁寧に解説をしてくれています。

③　「教師と学校が変わる学校コンサルテーション」（金子書房）
子どもや担任が抱えている問題を、整理し、評価し、関係機関と連携を君で効果的に解決していく取組についての事例が盛りだくさんです。

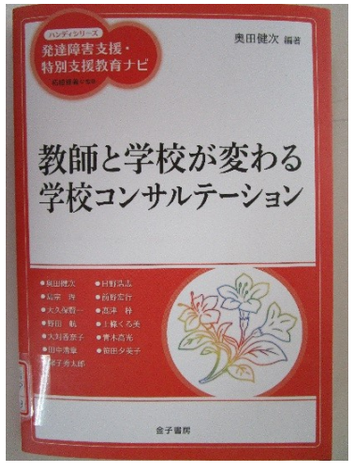
④　「自閉症スペクトラムの子どもたちをサポートする本」（ナツメ社）
特徴と原因・診断の流れ・支援のしかたなど自閉症スペクトラムの基礎知識がわかります。
行動療法、ABA、TEACCHによる構造化などさまざまな療育プログラムを紹介
家庭・園・学校での効果的なサポート例が満載の一冊です。

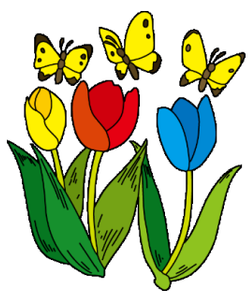
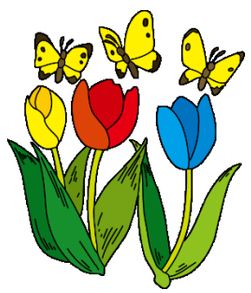
⑤　子どもの気持ちを知る絵本
「発達凸凹なボクの世界　ー感覚過敏を探検するー」（ゆまに書房）
感覚過敏は、まわりの人たちにはとても分かりにくく、本人にとってもつらい特性です。感覚過敏について詳しく書かれた絵本は、日本で初めてではないだろうかといわれている本です。

①

②

③



④

⑤